



正三位勲一等道家齊勲章加授
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十四年十月三十日

内閣總理大臣子爵加藤高明



内

閣



準備

内閣農勳第二九号

賞勳局令第二七號

大正十四年十月三十日附施行

十月二十九日

大正十四年十月三十日 内閣書記官長

内閣書記官 長

内閣總理大臣

賞勳局總裁



正三位勳一等道家齊儀ハ明治十七年十月農商務省御用掛ニ出仕シ後チ内閣總理大臣秘書官、樞密院書記官兼樞密院議長秘書官、法制局參事官其ノ他數官ニ歷任シ明治四十一年八月農商務省水産局長ニ轉シ大正元年十二月農商務省農務局長ニ任シ大正九年六月依願本官ヲ免セラレ

賞勳局

同年七月錦鷄間祇候被仰付大正十二年貴族院議員ニ勅任今日ニ至ル官吏在職實ニ三十有六年終始一貫職務ニ精勵シ殊ニ農商務省水産局長及農務局長在職中ハ我邦農業及水産業ノ振興發達ニ寄與セシ所甚カラス就中科學的ナル漁業基礎調査計畫ノ實施、日英米露間ノ膾蓘獸保護條約締結、ト口ル船漁業ノ區域制定、農業倉庫ノ法制及普及、開墾助成ノ法制及實施、食

糧農産物ノ品種改良多收穫獎勵、輸入植物ノ取締法制及検査所設置、畜産、茶業、蠶業各試験場ノ開設米穀管理、緬羊飼育獎勵ノ開始、絲價ノ調節及帝國蠶絲會社ノ設立等ニ付、同人ノ功勞ニ待ツ所多シ又大正九年退官後羅馬ニ於テ開催ノ萬國農事協會總會ニ委員トシテ出席シ本邦茶業ノ為有益ナル決議アラシメ又第四回國際労働總會ノ政府代表委員及國際労働理事會帝

賞勳局

國代表者トシテ努ムル所アリ其他産業組合中央會、中央畜産會、日本産業協會農事電化協會等ノ要務ニ参画シ我邦産業ノ進展ニ貢獻裨益スル所多大ニシテ功績洵ニ顯著ノ者ニ候處目下病氣危篤ノ趣ニ付此際特ニ旭日大綬章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

授旭日大綬章

正三位勳一等道家

齊

安政四年二月二十日生

右者明治十七年十月農商務省御用掛ニ出仕シ後々内閣總理大臣秘書官樞密院書記官兼樞密院議長秘書官、法制局參事官其、他教官ニ歷任シ明治四十一年八月農商務省水産局長ニ轉シ大正元年十二月農商務省農務局長ニ任シ大正九年六月依願本官ヲ免セラレ同年七月錦鷄間祇候被仰付大正十二年貴族院議員ニ勅任今日ニ至ル官吏在職實ニ三十有六年終始一貫職務ニ精勵シ殊ニ農商務省水産局長及農務局長在職中ハ多数ノ部下ヲ指揮統督シテ局務ヲ掌理シ勲勞タダク我邦農業及水産業ノ振興發達ニ寄與セシ所甚カラズ殊ニ科學的ナル漢業基礎調査計畫、實施、日、英、米、露間ノ膾炙保護條約締結、トロール船漢業ノ區域制定、農業倉庫、法制及普及、開墾助成ノ法制及實施、食糧農産物、品種改良多收穫獎勵、輸出入植物ノ取締法制及検査所設置、畜産、茶業、蠶業各試験場ノ開設、米穀管理、緬羊飼育獎勵ノ開始、絲價ノ調節及帝國蠶絲會社ノ設立等ニ付テハ同人ノ功勞ニ待ツ所多シ又大正九年退

官ノ後伊国羅馬ニ於テ開催ノ万国農事協會總會ニ
委員トシテ出席シ重要植物ノ生産、植物病虫害等
ニ関スル問題ノ討議ニ参加シ堪能ナル佛語ヲ以テ論議ス
ル所アリ本邦農業殊ニ茶葉ノ為有益ナル決議アラ
シメ又瑞西国「ジュネーブ」ニ於テ開催ノ第三回及第四回国
際労働總會ノ政府代表委員被仰付理事會ノ組
織改正問題トシテウエルサイユ平和條約ノ改正並ニ移民
問題等ニ付討議スルニ當リ常ニ我政府代表トシテ各
国ノ間及勞資双方ノ間ニ處スル所頗ル宜シキヲ得尚ホ
「ジュネーブ」ニ於テハ国際労働理事會帝國代表者トシテ
努ル所アリ同地駐在ノ本邦諸官ノ信服甚タ厚ク各員
ノ協力勉勵ヲ見タルハ一ニ其ノ熱誠ト人格トニ歸セサルヘカラス
叙上官吏在職中勲勞多大ナル外又同人ハ在職中及
退官後ニ於テ民間ノ事業ニ盡力セシ事項亦尠シトセス
彼ノ産業組合中央會ニ在リテハ明治四十年以來創立委
員、参事、理事又ハ副會頭トシテ現今ニ至ル迄創立並ニ
經營ニ関與盡ク瘁スルコト實ニ十九年ニ及ヘリ又中央畜
産會ニ在リテハ畜産界ニ於ケル各種團體ノ分立ハ斯業
ノ統一ヲ缺キ其ノ振興ヲ阻碍スルノ現況ヲ憂ヘ權威アル
統一機關ノ設立ヲ急務ナリトシ大正三年同人カ率先首唱

シテ其ノ創立ニ盡カシ創立後副會頭ニ與テケラレテ今日ニ
及ヘリ、日本産業協會ニ在リテハ大正十一年以來理事ト
ナリ幾クモナクシテ會長ニ選マレテ今日ニ至レリ尚我國ニ
於テ豊富ナル水カヲ利用シ農業上電力ヲ普ク使用セシ
メ以テ疲弊困憊セントスル農村ヲ救済スルノ急務ナルヲ
察知シ廣ク海外ニ於ケル電氣利用ノ法ヲ調査シ同
志ヲ糾合シテ大正十二年六月農事電化協會ヲ創立シ會
長ニ推サレ農事電化ノ奨励ニ努ムル所斯カラス其ノ他大
日本蠶絲會、中央報德會、青年團中央部、茶葉組
合中央會議所及日本勸業銀行、産業組合中央金庫
等ノ要務ニ參與シ盡カスル所亦多シ以上各種團體カ
我邦産業ノ進展ニ貢獻裨益スル所多大ナルハ敢テ謂フ
ヲ俟タサル所ニシテ其ノ茲ニ出テタルモノ同人ノ獻策貢獻ニ
因ル所斯カラスト信ス

然ルニ同人儀過日來病氣ニ罹リ昨今危篤ニ瀕シ居候
ニ付此際前記勲勞ヲ録セラレ頭書ノ勲章下賜ノ
御詮議相成度別紙調書及履歷書相添此段及
稟請候也

大正十四年十月三十日

農林大臣 早速整函



内閣總理大臣子爵加藤高明殿



人機密合第五八四號

大正十四年十月三十日

外務次官 出淵 勝

賞勳局總裁 宇佐美 勝 夫 殿

道家齊功績ニ關スル件

正三位勳一等道家齊敍勳ニ關シ農林大臣ヨリ内閣總理大臣へ
稟請ノ次第有之候趣ノ處同人當省ニ關スル功績別記ノ通りニ候間可然御取
計相成度此段申進候也

(已 號用紙)

裏面白紙

外務省

正三位勳一等 道家 齊

右者明治四十四年四月米國華盛頓府ニ於テ臘納獸保護條約會議開催ニ付委員トシテ參列被仰付同年五月ヨリ七月ニ至ル間同會議ニ參列シ米、露、英委員ト交渉シ會議ヲ重ヌルコト十數回途ニ克ク圓滿ナル解決ヲ得シメタリ

抑モ北太平洋臘納獸獵業ハ日、米、露、英四ヶ國最モ密接ナル關係ニ在リ從來該獵業ニ起因シ是等關係國間ニ於テ紛議交渉ヲ重ネシコト屢々ナリ而モ本條約ノ締結ニ依リテ能ク臘納獸保護ノ實ヲ完ウシ我國利ヲ増進スルヲ得シメタルモノ同人ノ勞功多大ナリト云ハサルヘカラス

大正十年十月瓊西國「ジュネーヴ」ニ於テ第三回國際勞働總會ノ開催ヲ見ルヤ帝國政府代表委員被仰付之ニ參列ス此總會タルヤ第一回勞働總會カ單ニ陸上ニ於テ工業ニ從事スル者ノミニ關シ第二回勞働總會カ海員ノミニ關シタルニ反シ會議事項ハ工業勞働者及海員ニ關スルモノノ外農業勞働者及商業使用人ニ關スル事項ヲ包含シ其ノ範圍極メテ廣汎ニシテ會議事項中特ニ農業問題カ重要視セラレタルノ觀アリシヲ以テ之ヲ國民經濟的見地ヨリ云フモ將又勞働立法ノ見地ヨリ云フモ其產業ニ影響スル所甚タ大ナルモノアリ道家委員ハ克ク之カ事態ヲ察シ帝國ノ利益ノ爲各國委員ト折衝シテ圓滿ナル妥結ヲ得シメ又大正十一年十月第四回國際勞働總會ノ「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラルルヤ再ヒ帝國代表委員トシテ之ニ列席シ「ヴェルサイ

裏面白紙

(已 號用紙)

ユル條約改正問題並移民問題等ニ關シ努力スル所アリ其他大正十一年七月及同年十月國際勞働理事會ニ於テ帝國代表者トシテ出席シ克ク各國代表者ト協調ヲ保チ重要案件ノ妥結ニ力ヲ效セル等其功績洵ニ顯著ナリ

外務省

裏面白紙

(已號用紙)

人機密合第五八四號

大正十四年十月三十日

外務次官 出淵勝



内閣書記官長 塚本清治殿

道家齊功績ニ關スル件

正三位勳一等道家^齊叙位叙勳ニ關シ農林大臣ヨリ内閣總理大臣へ稟請
ノ次第有之候趣ノ處同人當省ニ關スル功績別記ノ通ニ候間可然御取
計相成度此段申進候也

外務省

正三位勳一等 道家 齊

右者明治四十四年四月米國華盛頓府ニ於テ臘牒獸保護條約會議開催ニ付委員トシテ參列被仰付同年五月ヨリ七月ニ至ル間同會議ニ參列シ米、露、英委員ト交渉シ會議ヲ重ヌルコト十數回遂ニ克ク圓滿ナル解決ヲ得シメタリ

抑モ北太平洋臘牒獸獵業ハ日、米、露、英四ヶ國最モ密接ナル關係ニ在リ從來該獵業ニ起因シ是等關係國間ニ於テ紛議交渉ヲ重ネシコト屢々ナリ而モ本條約ノ締結ニ依リテ能ク臘牒獸保護ノ實ヲ完ウシ我國利ヲ増進スルヲ得シメタルモノ同人ノ勞功多大ナリト云ハサルヘカラス

大正十年十月瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第三回國際労働總會ノ開催ヲ見ルヤ帝國政府代表委員被仰付之ニ參列ス此總會タルヤ第一回労働總會カ單ニ陸上ニ於テ工業ニ從事スル者ノミニ關シ第二回労働總會カ海員ノミニ關シタルニ反シ會議事項ハ工業労働者及海員ニ關スルモノノ外農業労働者及商業使用人ニ關スル事項ヲ包含シ其ノ範圍極メテ廣汎ニシテ會議事項中特ニ農業問題カ重要視セラレタルノ觀アリシヲ以テ之ヲ國民經濟的見地ヨリ云フモ將又労働立法ノ見地ヨリ云フモ其産業ニ影響スル所甚タ大ナルモノアリ道家委員ハ克ク之カ事態ヲ察シ帝國ノ利益ノ爲各國委員ト折衝シテ圓滿ナル妥結ヲ得シメ又大正十一年十月第四回國際労働總會ノ「ジュネーヴ」ニ於テ開催セララルヤ再ヒ帝國代表委員トシテ之ニ列席シ「ヴェルサイ

裏面白紙

(已號用紙)

86

ユル條約改正問題並移民問題等ニ關シ努力スル所アリ其他大正十一年七月及同年十月國際勞働理事會ニ於テ帝國代表者トシテ出席シ克ク各國代表者ト協調ヲ保チ重要案件ノ妥結ニ力ヲ效セル等其功績洵ニ顯著ナリ

外務省

道家有氏

(正三位勳一等
貴族院議員)

水産農務臨時産業調
査及米穀管理ニ関スル 施設要項

萬國農事協會參列等ノ事 麻止

農商務省

小張紙

目次

(一) 水産ニ関スル施設

- 一 漁業、基礎調査
- 一 漁港設置、基礎調査
- 一 漁業組合、活動
- 一 漁獲物、販賣組織、調査
- 一 魚類、人工繁殖、奨励
- 一 石油發動機、奨励
- 一 脛胸獸條約、協定
- 一 脛胸獸條約ニ伴フ失業者救済
- 一 捕鯨船數、制限
- 一 トロール船漁業、區域、制定
- 一 専用漁業権、未済處分

農商務省

(二) 農務ニ関スル施設

- 一 開墾、奨励
- 一 主要食糧農産物増殖專任職員設置
- 一 食糧農産物品種改良、多收穫、奨励
- 一 農業水利法草案、制定
- 一 新地敷管理法、改正
- 一 町村技術員設置奨励
- 一 農會、指導
- 一 産業組合法改正
- 一 農政上、各種調査
- 一 農業倉庫業法、制定ト建設費補助
- 一 低利資金、増加
- 一 副業奨励及副業課新設

- 一農用器具機械、貸與、改良農具使用獎勵
- 一米、貯藏、研究
- 一米價調節調查會、組織
- 一輸出入植物取締法、制定及植物検査所、設置
- 一茶業試驗場、新設
- 一蠶絲業法、改正
- 一蠶業試驗場、設置
- 一生絲市價、調節、帝國蠶絲會社、設立
- 一生絲検査所、設置
- 一畜産試驗場、新設
- 一綿羊、獎勵
- 一地方種畜場、改善
- 一畜産組合法、制定
- 一獸疫調査所、擴張
- 一有益鳥類調査
- 一狩獵法、改正
- (三) 米穀管理、關スル施設
- 一外米輸入、断行
- (四) 臨時産業調査、關スル施設
- 一水産物販賣、根本的調査
- 一棉花、調査及根本方策、樹立
- 一蠶絲業、關スル調査
- 一綿羊、基礎的調査
- 一食糧問題、根本的調査
- (五) 萬國農事協會總會參列等
- 一萬國農事協會及勞働總會

農 商 務 省

(不張納)

(一) 水産ニ関スル施設

明治四十一年水産局長ニ任セラレテ以來水産ニ関シ左記施設ヲ為シタリ

一 漁業ノ基礎的調査トシテ潮流及微生物ノ關係ヲ調査シ以テ魚族ノ棲息状態ヲ知ルニアラサレハ的確ナル漁業ヲ為ストム能ハサルヲ以テ海洋調査事業ヲ開始セリ此ノ事業ハ漁業上基礎的調査ニ屬スルヲ以テ目前ノ利益ヲ示スト能ハス隨テ從來等閑ニ付セラレタム事業ナルカ故ニ當時其ノ施行ハ頗ル困難ナル事業ニ屬シタリト雖漸ニ之カ開始ヲ見ルニ至リタリ此ノ調査ノ結果ニ基キ今日海洋調査事業ハ必要ナル船舶並必要ナル技術者ヲ設置シテ本事業ノ發展ヲ見ルニ至リタリ是レ漁業上ノ基本調査トシテ最モ緊要ナル一大事業ナリトス

農商務省

一 本邦ニ於ケル漁民ハ數百萬人多キヲ算ス而シテ此等ノ漁民中年々災害ヲ蒙リ人命、漁船、漁具等ノ損害ヲ受ケテ慘狀ヲ極ムルモノ歎シトセズ之カ救濟ノ方法ハ一ニシテ足ラスト雖其ノ主ナル原因ハ漁港並避難港ヲ缺ケルニ基クモノト謂フヘク多幸當局者ハ其ノ必要ヲ認メタムニニ関スル基礎的調査ヲ缺クヲ以テ特ニ必要ナル職員ヲ配置シ漁港設置ノ根本的調査ヲ為シ大體ノ計畫ヲ樹テテ以來此ノ計畫ニ基キ現今既ニ數港ノ修築ヲ見ルニ至リ漁民ノ生命ハ勿論財産ノ安固ヲ圖ル一大施設ナリトス

一 由來我國ノ漁業者ハ概シテ貧困ニシテ生活豊カナラス若シ不漁稍永キニ亘ラハ忽チ生活ニ困窮スルノ慘狀ヲ呈スルヲ常トス仍テ彼等ノ生活並經濟ノ發達ヲ圖リ且漁民相互共助ノ精神ヲ發揚スルヲ急務ナリト認メ漁業法ニ改正ヲ加ヘ

テ漁業組合ノ經濟的活動ニ便シ之カ作樂ヲ圖リタリ現時全國ノ漁村ニ發達セム漁業組合ノ活動ノ源ハ此ノ時ニ發ス

一漁獲物ノ販賣組織ハ從來漁業者ヨリ消費者ニ至ル間多數ノ仲間商人存在シ不當ノ利得ヲ獲得スルニト勘カラス之カ為ニ漁業ノ不振ヲ來セル地方アリ又一面消費者ニ於テモ不廉ニシテ新鮮ナラサム魚類ヲ消費シワゾアリ即チ漁獲物ノ販賣組織ハ頗ル不完全ニシテ漁業ノ發達ヲ阻害セムハ勿論一般消費者ノ經濟並衛生上實ニ寒心スヘキ狀態ナリシテ以テ之カ販賣組織ノ改善ニ努力センカ為先ツ漁獲物販賣組織ノ根本的調査ヲ為シ大都市ニ於ケル魚市場ノ改善策ヲ樹立シ生産調査會ニ諮問シ同會ノ決議ヲ經テ之カ實行ノ緒ニ就カントセシトキ農務局ニ轉任被命タルヲ以

農 商 務 省

テ中止ノ已ムナキニ至レリ然レトモ此ノ調査ノ結果漁業組合ヲ促シ直接消費地ニ於テ共同販賣ヲ為スニ至ラシメタリ一魚類ノ繁殖ハ從來自然ノ狀態ニ放任シテ顧ミラレサキ之カ為魚類ノ繁殖數カラントスルノ傾向アリクハ以テ其ノ人工的繁殖方法並適地ノ調査ヲ施行シ適地ニ對シテ人工的繁殖ヲ獎勵シタル結果現今、如ク魚類ノ人工的繁殖隆盛トナリタリ

一本邦漁業中最モ重要ナル鯉漁業ノ發達ヲ圖ランカ為鯉漁船ニ石油發動機ノ裝置ヲ獎勵シタリ其ノ結果近時各地ニ於テ長足ノ普及ヲ見、遠洋漁業ノ發達ヲ致シ漁獲物モ著シク増加スルニ至リタリ
一獵虎、腿胎獸ハベイリング海及オコワツ海方面ニ棲息スル貴重ナル動物ニシテ之カ漁獲ニ對シテハ本邦人ノ發展著シク

遂に露領、加奈陀、北米合衆國所屬ノ嶋嶼ニ及ヒ此等ノ外國ノ領土ニ深く進シ盛ニ掠奪ヲ爲シ年々各國民トノ間ニ紛争ヲ起シ生命財産ヲ損スルコト數カラス之カ爲ニ各國間ノ外交上ノ紛争ヲ起シ三等ノ貴重ナル動物ノ繁殖ヲ害シ殆ト全滅セントスルノ狀況ナリキ之カ爲日、英、米、露諸國ノ全權委員ノ會合トナリ此動物ノ保護條約ヲ明治四十四年協定セリ當時委員トナリ米國ニ出張シ此ノ條約制定ニ當リタリ此ノ條約ノ效果トシテハ各國間ノ國際紛擾ヲ一掃シタルノミナラス此等貴重動物ノ繁殖著シク増加シ各國ノ得タル利益莫大ナルモノアリ就中我國ニ於テハ利益分配ヲ比較的多少收得スルコトヲ得タリ是レ本條約協定ノ際萬難ヲ排除シテ本邦ニ利益アラシムルノ方法ヲ強硬ニ主張シタル結果ナリ

農 商 務 省

一 脛肭獸保護條約ノ協商ノ結果各國對ニ條約締結後約五箇年間漢業ヲ禁止セリ之カ爲我國ニ於テハ數百名ノ失業者ヲ生シ之カ賠償金約百万円ヲ支出シ救済ヲ爲ストトシタリ而モ救済方法ハ頗ル困難ナリシモ分配適當ナルコトヲ得何等ノ支障ナク解決スルニ至リタリ

一 捕鯨會社濫設セラレテ相互競争ヲ爲シ鯨ノ濫獲ヲ爲スモノ多ク爲ニ之カ繁殖ヲ阻害スルノ傾向ヲ認メタルヲ以テ捕鯨船數ヲ制限シ捕鯨會社ノ利益増進ニ努メタリ

一 遠洋漢業ノ一部トシテトロール船ノ發達ヲ奨励シタル結果著シク之カ激増ヲ來シタリ爲ニトロール船ノ漢業區域ヲ制定シテ沿岸漢民トノ紛争ナカラシムルニ共ニ取締船ヲ特設シテ之カ監視ヲ行ヒタリ

一 漢業區域ハ從來ノ慣行ニ依リテ大体定マリ居リタルモ其ノ區域及漢獲物ノ種類ノ分界明カナラサル爲漢民間ニ數カチサル

(本報抄)

紛争ヲ惹起シ漢業上ノ不便及經濟上ノ不利アルニシテ
不漢民ノ生命及財産ヲ損傷スルコト勸カラズ之カ原因ヲ探
リ根本的ニ解決スルノ必要ヲ認メ專用漢業權ヲ認ムルコトト
セリ然ルニ事件ノ解決ハ大部分處方未濟ニシテ就中大漢
場ノ紛争甚シク殆ト解決セラレザリ以テ極力處分ヲ急キ最
モ困難ナル大漢場ヨリ解決ヲ断行シ紛争ヲ根絶セシメタム効果
頗ル大ナルモアリ

(二) 農務ニ関スル施設

明治四十五年農務局長ニ任セラレテ以來農務ニ関シ左記
施設ヲ為シタリ

農 商 務 省

一本邦國民ノ食糧問題ハ最重西女ナル事項ニシテ農産物ハ
其ノ大部ヲ占ム而シテ農産物中ニ於テモ米麥ヲ以テ其ノ
主要ナルモノトス 然ルニ米麥ノ生産ハ年々増加ノ趨勢ニ在
リト雖人口ノ増加ニ伴ハスシテ其ノ需要ヲ充スヲ能ハサルノ狀
況ナリ故ニ之カ自給ノ方策ヲ講スルコトハ 國家ノ獨立自營上緊
要トスル所ナルヲ以テ之カ根本的方策ヲ樹立スル為根本的ノ
調査ヲ行ヒ之ニ基キ耕地ノ擴張及利用ヲ畫策セリ而シテ
耕地ノ擴張ニ付テハ 開墾^{補助}成法ヲ制定シテ未墾地二百万
町歩中二十五万町歩ニ對シ五町歩以上ノ開墾土者ニ資金ノ
利子トシテ六分ニ當ル金額ヲ補給シ約十箇年繼續事業
トシテ總資金五千万円ヲ繼續支出スルコトセリ尚ホ又未墾
地二百万町歩ノ内面積五十町歩以上集團セル土地五十万町歩
ニ對シ之カ開墾ノ根本的設計ヲ為ヤシメンカ為本者ニ技術
者ヲ設置シ全國ヲ分ケテ十三班ト為シ調査ニ當ラシメウツ

アリ此ノ調査ト開墾助成法ト相俟ツテ未墾地ノ開墾ヲ
獎勵セリ尚開墾ヲ助長スル為農用機械ヲ貸與シ移住
者ニ住宅ヲ給シ開墾地ノ墾下年期ヲ從來ノ二倍ニ延長
シ本事業ノ遂行ヲ容易ナラシムルニ努メタリ其ノ結果耕地ノ
開墾ヲ目的トスル會社起リ全國ニ開墾ヲ為ス者著シク
増加スルニ至リタリ

一 從來主要食糧農産物ノ増殖ニ関シテハ本省並地方廳ニ
專任ノ職員ナク為ニ事務ノ統一ハ勿論農業者ノ指導獎勵
上遺憾ノ莫多カリシヲ以テ本省並地方廳ニ主要食糧農
産物増殖ノ事務ニ従事スル技術者ヲ設置シ地方廳ニ對
シテハ俸給旅費ノ半額ヲ補助スルニストシテハ以テ強ト全
國各府縣ニ之カ設置ヲ見ルニ至リタリ

農 商 務 省

一 主要食糧農産物タル米麥馬藪薯及雜穀ノ品種改良
ヲ行ハシメテ優良品種ノ選出普及ニ努メ地方農事試験場
ニ原種田ヲ經營セシメ更ニ町村又ハ町村農會ニ採種田ヲ設
置セシメ優良品種ノ普及發達ヲ圖リ以テ之カ為全國
農家ノ栽培セル農産物ノ品種ハ遠カラス其ノ面目ヲ一新
セントスルニ至レリ

又米麥ノ多收穫ヲ獎勵スル為農會等ニ於テ米麥增收品
評會ヲ開催セシメ補助金ヲ交付シテ多收穫ヲ獎勵セリ
一 我國ノ水利慣行ハ頗ル錯雜ニシテ或ル地方ハ餘水多キニ拘
ラス其ノ隣接地ハ水利ノ便ヲ缺クカ如キ狀況ニシテ農業ノ
經營上頗ル困難トシツツアリキ殊ニ水利問題ノ為農村ニ
論争起リ人命ヲ損スルト歎シトセス故ニ根本的ニ水利關係
ノ調査ヲ行ヒタルニ灌排水ノ最モ不良ナル地約五十万町歩アリ
之ニ適當ニ配置スル為更ニ職員ヲ設置シテ其ノ基礎的調

査ニ着手シ一面ニ於テハ農業水利法ヲ制定シ灌排水ノ整備ノ實行ニ便シ水利上ノ紛争ヲ防止センカ為ニ之カ草案ヲ作リタリ

一 従来ノ耕地整理事業ハ土地改良ノ一部ニ限リタルモ斯クテハ事業ノ發達上支障多キヲ認メ開墾及干拓ハ勿論灌排水ノ設備ヲモ為ストテ耕地整理事業中ニ包含セシムル為耕地整理法ヲ改正シ以テ之等ノ施行ヲ容易ナラシメタリ由來耕地整理事業ハ生産力ヲ著シク増加シ生産費ヲ大ニ節減スルノ効果アリ本改正ノ結果耕地整理事業大ニ勃興シ發達ノ趨勢ニ向ヒタリ

一 農業者ヲ指導シ獎勵施設ノ普及徹底ヲ圖ランカ為ニ町村又ハ町村農會ニ技術員ノ設置ヲ獎勵シタル為今々全國ニ約五千ノ技術員ヲ町村又ハ町村農會ニ設置スルニ至リ

農 商 務 省

タリ而シテ目下設置セントスル希望多キニ拘ラス技術員不足セルノ狀況ナリ殊ニ町村ニ駐在スル技術員ノ指導ノ適否ハ直ニ農業者ノ經濟ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノナリ故ニ適任者ヲ配置スルコトヲ要ス仍テ府縣ニ於テ町村技術員養成ノ施設ヲ為ストキハ其ノ經費ノ一部ニ對シ補助スルコトシタリ之ニ依リテ技術員養成ノ施設ヲ為ス府縣漸ク多キヲ見ルニ至リタリ

一 従来農會ノ施設セル事業ハ多ク生産的方面ニ主力ヲ注キタル關係上往々行政廳ノ施設ト衝突ヲ來シ或ハ各級農會ノ事業重複スルノ嫌アリタリ仍テ上級農會ハ農業者ノ輿論ヲ代表スルハ勿論下級農會ノ助成ニ力ヲ注キ經濟的方面ニ社會的方面ニ對シ施設畫策スルコトヲ努メ之カ為ニ道府縣農會ノ事業經營方針一變シ

大正七年ヨリ全國五箇所ノ主要都市ニ農産物並副業生産品ノ販賣斡旋所ヲ設クルニ至リ其ノ成績見ルヘキモアリ

一 産業組合ハ其ノ數一万三千餘アリト雖内容ノ充實セルモノナキヲ以テ之カ活動ヲ促シ中小産者ノ産業並經濟ノ發達ヲ圖ラシメンカ為産業組合法ノ改正ヲ行ヒ本省ニ監督ニ從事スル專任ノ職員ヲ設置シテ指導監督ニ當ラシメワツアリ其ノ結果今ヤ産業組合ノ活動スルニ漸ク多キヲ加フルニ由レリ

一 農政策ノ確立ヲ因ニハ的確ナル調査ヲ基礎トシテ畫策スルニトテ要スルカ故ニ農會ニ補助金ヲ交付シテ農家經濟調査自作農創定ニ關スル調査ヲ行ハシムト共ニ地主小作問題等直接各般ノ調査ヲ爲シ此ノ調査ニ基キ施設ノ

農 商 務 省

参考ニ供シタリ

一 中小農業者ノ生産セル穀物及繭ニ付貯藏、金融及販賣ノ便益ヲ喚ハ穀價調節ヲ圖リテ平準ナラシムル為農業倉庫業法ヲ制定シ穀價調節上必要トスル五百萬石ノ米ヲ貯藏シ得ヘキ農業倉庫ヲ十ヶ年計畫ヲ以テ全國ニ五十坪ノ倉庫四千箇所ノ建設ヲ獎勵センカ為農業倉庫建設費ノ二割ヲ補助セリ今ヤ各地ニ之ヲ設立スルニ漸ク多キヲ加フルニ至リ豫定計畫ノ約半數ニ達スルノ盛況ナリ

一 農村ノ資金ハ漸次都市ニ集中セラレ動モスレハ農村ノ資金涸渴セントスルノ狀況ナリ故ニ從來ニ三百萬円内外ノ低利資金ヲ耕地整理組合及産業組合ニ供給シ來リタルモ其ノ金額僅少ナリシヲ以テ效果充分ナラサルノ憾アリ仍テ供給額ヲ一千萬円ニ増加シ畜産組合ニモ供給スルノ途ヲ開キタリ

(小異納)

一 中小産業者ノ經濟ハ概シテ貧困ニシテ其ノ生活安定ナラサルノ憾アリ故ニ經濟ヲ豊ニシ生活ノ安定ヲ圖ル為副業課ヲ設置シ專任ノ職員ヲ設ケ獎勵金ヲ交付シテ副業ノ獎勵ヲ行ヘリ其ノ結果今ヤ副業ノ勃興スルニ漸ク増加シ来リタリ

一 農村人口ハ都市ニ集中シ農業勞働者不足ノ傾向ヲ認メタルヲ以テ改良農具ノ使用ヲ獎勵シテ勞力ノ節減ヲ為サンカ為トラクター十二台、根拔機械二十台ヲ輸入シテ農業者ニ貸與シタリ又農事試験場ヲシテ農具ノ試験研究ヲ為サシムルハ勿論農具ノ品評會ヲ開催セシメ改良農具ノ使用ヲ獎勵セリ其ノ結果改良農具ヲ使用シ農業上ノ動力ヲ利用スル者漸次増加スルノ狀況ナリ

農 商 務 省

一 アルモ米ニ付テノ調査研究ハ等閑ニ付セラレウツアリシヲ以テ米ノ研究ヲ為リシカ為米貯蔵ニ関スル試験研究ヲ農事試験場ヲ施行セシメタリ

一 大正三年米價著シク低落シ農村困憊ノ聲高カリシヲ以テ米價ノ根本的調節策ヲ樹立スルノ要アリト認メタルモ米ノ問題ハ其ノ關係スル所頗ル廣汎ニシテ且影響甚大ナルモノアリ仍テ官民七十餘名(委員)成ル米價調節調査會ノ組織ニ努メタリ此ノ調査會ノ決議事項ノ一タル農業倉庫ノ獎勵ハ既ニ設施ヲ為シタリ

一 交通ノ發達ニ伴ヒ海外ヨリ輸入スル植物ニ附着セル病菌害虫ノ内地ニ侵入シテ激甚ナル損失ヲ堪ヘタルコト歎カラヌ又外國殊ニ米國ニ輸出スル植物ニ付テハ彼國ニ於テ嚴重ナル取締ヲ為ストトナリ輸出國タル我國ニ於テ充分先方ヲ安

心セシムル検査ヲ行フニアラサレハ折角發達シ来ル植物ノ輸出モ全ク輸入ヲ禁止セラルルニ至ラントセリ故ニ輸出入植物取締法ヲ設ケ全國輸入港ニ植物検査所ヲ設置シ輸出入植物ノ検査ヲ行ハシメツツアリ之カ為海外ヨリタル病菌害虫ヲ輸入ハ殆ト根絶スルニ至リ又米國ノ植物ノ輸出ハ日ヲ逐フテ發達スルニ至レリ

一 制茶茶ハ我國農産物中生絲ニ次キテ重要ナル輸出貿易品ニシテ其ノ生産額數カラス隨テ茶葉ニ關シ攻究施設スヘキコト多キニ拘ラズ從來僅ニ農事試験場ノ一部ニ於テ試験研究ヲ為スニ止リ其ノ規模設備不完全ナルカ故ニ當業者モ多年茶葉試験場設置ノ必要ヲ唱導シタルカ遂ニ之カ設置ノ計畫ヲ樹テ大正八年度ニ於テ静岡縣金谷原ニ約ハ所賣ノ土地ヲ擁スル試験場ヲ設置シ茶葉ニ關

農 商 務 省

ル試験研究ヲ施行セシムルコトトセリ

一 從來ノ蠶絲業法ハ蚕病預防検査ノ手續頗ル煩雜ニシテ又桑苗生絲ノ賣買ニ關スル取締亦不備多カリシヲ以テ運用上ノ不便數カラザリキ仍テ蠶絲業法ヲ改正シテ之等ノ欠ヲ改正スルハ勿論原蚕種ノ検査ヲ嚴ニシ普通蚕種ニ對シテハ手續ヲ簡ニシ以テ蠶絲業ノ發達ヲ図リ

タリ
又製糸業者ニ對スル監督及桑樹栽培ノ指導ニ關シ從來何等ノ施設ナカリシヲ以テ蠶絲課ヲ擴張シ職員ヲ増設シテ之等ノ指導監督ニ從事セシムルコトトセリ
一 蚕種ハ從來頗ル雜駁ニシテ生絲ノ品質區々タルヲ以テ蚕種ノ統一ヲ圖リ生絲ノ改善ヲ促ス為ニ原蚕種製造所ヲ設置スルノ必要ヲ認メ原蚕種製造所ヲ設置スルコトトセリ

(小蠶類)

然ルニ原蚕種ノ製不造ノミニテハ充分其ノ目的ヲ達スルコト能ハス故ニ寧ロ根本的ニ蚕絲業ニ関スル試験研究ヲ廣ク行ハシムルニ若カスト認メ蚕業試験場ヲ設置シテ蚕絲業ノ改良發達ヲ図ルニ努メタリ即チ中央ニ本場ヲ設ケ地方ニ次ケ所ノ支場ヲ設ケタリ 試験場設置ノ効果トシテ一代雜種ヲ作り原種ヲ各府縣ニ配付セシ結果著シク生絲改善ノ實ヲ擧ケルコトヲ得タリハ宜定ニ一大事業ナリト謂フヘシ又沈繰法ノ効果ヲ試験研究シ其ノ優良ナルヲ認メタルヲ以テ普及ヲ図ル為ニ蚕業試験場ニ講習部ヲ設ケ年々技術員ノ養成ヲ為シツツアリ

一大正三年生絲ノ市價著シク低落レ製絲家ノ困難大ナルモノアリシヲ以テ之カ救済ノ方策ヲ樹テ帝國蚕絲會社ノ組織ヲ援ケ資金ヲ融通シ生絲市價ノ調節ヲ図リタリ

農 商 務 省

為一梱六百円ニ低落シタルモノ千円内外ノ市價ヲ維持スルコトヲ得タリ

一生絲検査所ハ從來生絲ノ良否ヲ検査シタルニ止リ種々ノ原料ト其ノ使用ノ結果トノ關係ヲ確ムル途ナカリシ為ニ生絲ノ販賣上支障アルヲ認メ之カ改善ヲ図ル為ニ同所ニ試験部ヲ設置シタリ

一本邦農家ノ經營ハ頗ル不完全ニシテ家畜ヲ加フルモノ少ク為ニ經營ハ一部ニ偏スルノ傾アリ故ニ之カ改善策トシテ家禽家畜ヲ飼養セシムルコトハ緊要ナル事項ナリ尚家畜家禽ハ食糧問題ノ見地ヨリスルモ將タ軍需問題ヨリ考察スルモ宜ニ必要トスル所ナリ然ルニ從來此ノ方面ノ施設ヲ為スコト少ク獎勵上遺憾ノ上莫多カリシヲ以テ先ツ第一ニ家禽家畜及畜産物ニ付試験研究ヲ為サシムル為ニ千葉縣千

(小冊子)

葉町附近ニ約八十町歩ノ面積ヲ以テ畜産試験場ヲ設
立シタリ 豚及鶏ニ付テハ純良種ヲ輸入シ之ヲ繁殖シテ
一般當業者ニ配布スルノ途ヲ講シ尚ホ養蜂ニ関スル研
究設備ヲ為スニ至リタリ

一 小家畜中 緬羊ハ明治維新後一時本邦ニ輸入シテ飼育
ヲ獎勵シタリコトアルモ 斃死スルモノ多ク遂ニ緬羊ハ我國ノ
風土ニ適セザルモノ、如ク信セラレ之ヲ顧ルモノ殆トナカリキ
然ルニ輸入スル種類ヲ選擇シ飼育管理ノ方法宜シキ
ヲ得ルニ於テハ容易ニ斃死スルモノニ非ヤトヲ確メタリ
ヲ以テ今後二十五箇年間ニ百万頭ノ増殖ヲ図ルノ計畫
ヲ樹テ軍需上必要ナル羊毛ノ自給ヲ策シ一面本省並
地方廳ニ技術者ヲ設置シ本省ニハ緬羊課ヲ特設シ一
箇所約二百町歩ノ面積ヲ有スル種羊場ヲ全國五箇

農 商 務 省

所ニ特設シテ 緬羊ヲ輸入繁殖シ一般ニ之ヲ拂下ケテ普
及發達ニ努メワツアリ其ノ結果本事業施設當時ハ全國
ニ三千二百頭内外ナリシカ 數年ナラスニテ今日約一萬頭五ヲ
算スルニ至リ將來農家ノ副業トシテ好適ノモノナリ

一 地方種畜場ハ從來僅少ナル經費ト不完全ナル設備ヲ維
持シツワリテ其ノ成績不振ノ域ヲ脱スルコト能ハザリキ然ル
ニ此ノ種ノ撥開ノ並普及發達ハ畜産ノ獎勵上緊要ナル
ヲ認メ補助金ヲ交付シテ之カ改善ニ努メタリ當時僅ニ十
七箇所ニ過ヤカリシカ此ノ施設ヲ為スニ至リ勿忘テ十箇所以
上ノ増設アンニ至リタリ

一 從來玄田產業者ノ間ニ産牛馬組合ノ組織アリタリト雖モ
組合ノ施設ハ常ニ一局部ニ偏シ活動充分ナラザリシヲ以テ
畜産組合法ヲ制定シテ經濟的活動ヲ接ケタム為ニ急激

(小振附)

ニ設法ヲ見ルニ至リタリ

一 獸疫調査所ノ規模大ナラセシメテ為 獸疫ニ関スル諸種血清ハ
需要多クシテ供給之ニ伴ハサリシヲ以テ 獸疫調査所ノ事業
ヲ擴張シ 職員ヲ増置シテ 獸疫ニ関スル研究ハ勿論各種血
清製造ヲ多クカラシメタリ 今ヤ 各種血清ハ 需要ヲ充テテ遺
憾ナキニ至レリ

一 鳥類中有益保護鳥ハ年々減少ノ趨勢ニ在リタルヲ以テ
鳥類調査所ヲ設置シ 有益鳥ノ保護ニ関スル根本的研
究ヲ為サシメツワアリ

一 従来ノ狩獵法ハ 保護鳥類ノ 名稱ヲ列記シタルモ其ノ數
頗ル多クシテ一般ニ徹底セザルノ憾アリタリ 故ニ 狩獵法ノ
改正ヲ行ヒ自由狩獵ヲ認ムル鳥類ノ 名稱ヲ掲ケ 獵具ノ
種類ヲ増加シ 獵區ヲ設定シ 共同狩獵地ヲ整理シ 林系

農 商 務 省

獵區ノ設置ニ付テハ 地方長官ノ 権限ナリシヲ 農商務大臣
ニモ及ボシタリ 又 狩獵法ノ 改正ト共ニ 本省並 地方廳ニ專
任ノ職員ヲ 配置シ 監督上 遺憾ナカラシムルニ努メタリ

(三) 米穀管理ニ関スル施設

大正八年臨時米穀管理部長ニ任セラレ 施設シタル事項左
ノ如シ

一 大正八年ハ内地米ノ生産ノミヤマテハ 消費ニ不足シ 又海外
耕場ヨリノ米穀ノ輸入頗ル困難ナル狀勢ナリ 故ニ 供給不足
ヲ豫想セラレ 為ニ 一般民心危惧ノ念ニ 驅ラレツワアリシカ
多大ノ困難ヲ排除シテ 數百萬石ノ 外米ノ輸入ヲ 断行シ
供給ノ潤澤ヲ圖リタルニ 為ニ 一般國民ノ 食糧不足ノ不安ヲ

(小張附)

一掃スルニ至リタリ

(四)臨時産業調査ニ関スル施設

大正六年臨時産業調査局第一部長ニ任セラレテ以來施設シタル事項凡ノ如シ、

一水産物ニ付販賣ノ方面ヨリスル根本調査ヲ行ヒ施設ノ基礎ヲ確立スルニ努メタリ、

一棉花ニ付テハ内地、朝鮮、台灣、支那及埃及ノ棉花ノ生産分配、消費ノ状況ヲ調査研究シテ根本方策ヲ樹立シ之ヲ殖民地ニ示シタルニ既ニ朝鮮總督府ニ於テハ此ノ計畫ニ基キテ施設ヲ為シツツアリ、

一蚕絲業ノ金融、販賣及桑樹等各般ニ亘リテ基礎的調査ヲ行ヒ以テ本省施設ノ参考ニ供シタリ、

農商務省

一綿羊ニ付基礎的調査ヲ行ヒ本省ニ示シテ綿羊獎勵ノ根本ト為シタリ、

一主要食糧問題ニ関シ根本的調査研究ヲ行ヒ本省ニ示シテ施設ノ参考ニ供シタリ、

(五)萬國農事協會總會参列等

一農商務省退官後大正九年伊太利ニ於テ萬國農事協會日第五回總會開催ニ付委員トシテ参列仰付ケラレ克ク其ノ任務ヲ完フセリ、

一大正十一年中瑞西ニ於テ開催セラレタル第四回國際勞働總會ノ政府代表委員^{トシテ}仰付ケラレ克ク其ノ任務ヲ完フセリ

一 大正十一年十月瑞西ニ於ケル國際労働理事會政府代表仰付
ケラレ大正十三年七月迄其ノ任ニ在リタリ

農商務省

農
商
務
省

111

官廳以外諸團體等ニ関スル事ニ
關シ

農商務省

明治十三年

目次

- (一) 産業組合中央會
- (二) 中央畜産會
- (三) 日本産業協會
- (四) 農事電化協會
- (五) 大日本蚕絲會
- (六) 中央報德會
- (七) 青年團中央部
- (八) 日本勸業銀行
- (九) 産業組合中央金庫
- (一〇) 茶業組合中央會議所
- (一一) 支那滿蒙ニ於テ農牧企業ノ援助

農 商 務 省

農商部

(一) 産業組合中央會

明治四十年四月ヨリ同四十二年十二月ニ亘リ創立委員トシテ明治四十二年一月ヨリ大正三年五月ニ亘リ參事トシテ大正三年六月ヨリ同八年九月ニ亘リ監事トシテ大正八年九月ヨリ同九年五月ニ亘リ再ニ參事トシテ大正九年五月以降理事トシテ大正十二年十月以降ハ副會頭トシテ會務ニ関與スルコト今又十有九年ノ永キニ違セリ其ノ間ニ於ケル同會施設ノ要項尤ノ如シ

一 大正元年以降毎年産業組合理事者養成ノ事業ヲ行ヒツツアリ現時全國ノ組合事業ノ指導者ノ任ニ當ル者ハ殆ト全部之ニ依リテ養成シタルモノニシテ其ノ人員約一千百名ノ多クキニ違ス

農 商 務 省

一 大正七年全國ニ亘リ消費組合ニ關スル宣傳ヲ為シ之ヨリ消費組合ノ設立漸ク増加シ今日其ノ効果ノ表ハレタルモノ實ニ著シキモノアリ
一 大正八年全國ニ亘リ勤儉貯蓄ト共存共榮ノ精神ヲ鼓吹宣傳シ農村金融上ニ資シタルコト勲カラス

一 大正十四年産業組合法發布ニ至五周年ニ際シ全國ニ亘リテ大會ヲ開キ其ノ宣傳ニ努メテ産業組合ノ普及及發展ニ資セシメト勲カラス

(二) 中央畜産會

大正三年當時本邦畜産事業ハ比較的幼稚ニシテ頗ル不振ノ状態ニ在リシノミナラス畜産界ニ於ケル各種團體ノ分其却テ畜産ノ振興ヲ妨ケルノ現況ナリシヲ以テ民間ニ於ケル方針アリ權威フル統一機關ノ設ケヲ急務ナリトシテ先シテ中央畜産會ノ創立ニ盡力シ大正四年七月其ノ創立ト共ニ理事トナリ同時ニ副會頭トナリ以テ現今ニ至レリ其ノ間ニ於ケル

同會施設ノ要項ヲ如シ

一會ノ創立ト共ニ本邦同好會・肉食獎勵會・日本畜

畜會等之ニ併合シテ諸團體分立ノ弊ヲカラシメテ

一畜産ニ関スル思想ノ普及並ニ事業指導ノ為ニ時各般

ノ施設即チ乳牛ニ関スル登録事業・機関雜誌・畜産

及畜産工藝ノ刊行其ノ他ノ事業ヲ行ヒ為ニ幼稚ナル畜

産界ノ普及並ニ促シツアリ

一明治七年日本畜産協會及日本帝國ジエルシー協會ト合

併シテ本邦ニ於ケル畜牛登録ノ基礎ヲ作ル

一明治八年東京ニ於テ本邦創始ノ畜産工藝博覽會ヲ

開催シ畜産並ニ畜産工藝ニ関スル思想並ニ智識ノ普及

成上著大ナル功績ヲ興テタリ

一明治十年我國家畜ノ精粹ヲ東京ニ集メテ畜産博覽會

農 商 務 省

會ヲ開キ畜産ノ改良上ニ一新紀元ヲ開ク

一毎年東京ニ於テ畜産會共進會ヲ開催シ品種ノ統一改

良ニ次具シツアリ

一毎年中央及地方ニ於テ畜産ニ関スル各種ノ講習會ヲ開

催シ以テ畜産組合理事者及技術者ノ養成ヲ為シツ

アリ

一明治十四年東京ニ第二回畜産工藝博覽會ヲ開キテ

畜産界ノ進歩ヲ示シ併セテ畜産ノ一般ノ普及宣傳ニ力カ

(三) 日本畜産協會

明治十年四月理事トナリ同十年十月以降ハ會長トナリ以テ今

日ニ至ルニ在職中關係セル重ナル事業ヲ興テクレバ如シ

一明治十年六月火災ノ為ニ燒失セル上野公園不忍池畔ニ於ケル

畜産館建設及事業ノ進展ニ関シ其力カ

市外十七ヶ都市ニ開催シ其ノ効果大ナルヲ認メラル

一 同年十月雜誌「副業」發刊

一 同年巴里萬國美術裝飾工藝博覽會ニ政府ヨリ出品管理事務部長ヲ命セラル出品事務ヲ主宰ス

一 大正十四年三月ヨリ七月迄第二次國産品愛用巡回展覧會ヲ岡山外十一ヶ都市ニ開催シ國民ニ對シ國産愛用ヲ勸メ輸入防遏ニ盡カセリ

一 同年七月海外産業貿易功勞者八名輸入品防遏上ノ産業功勞者二十七名ヲ選擢シ之ヲ表彰シテ國産獎勵ト輸入防遏ニ関シ盡カス

一 同年十月米國獨立百五十年記念萬國博覽會出品管理事務ヲ政府ヨリ命セラレ

農 商 務 省

一 大正七年以來本會ニ於テ取扱ヒ居レル副業獎勵ニ関スル事業ニ對シ一層之ク助長ニ務メ參考品ノ購入、映画、調製、講習講演、調査、販賣斡旋等ノ各種事項ヲ遂行ス

一 農林省補助ノ下ニ大正十四年十一月二十日ヨリ十二月二十日迄上野産業館ニ於テ全國副業展覧會開催ニ決定會長トシテ同事務ヲ兼掌ス

(四) 農 事 電 化 協 會

歐洲大戰后經濟界ノ激變ニ伴ヒ農村ハ著シク其影響ヲ蒙リ農業ノ根蒂ニ動搖ヲ来タシテ農村問題ノ朝野論議ノ焦點トシテ其ノ解決ニ方策トシテ水力富豊ナル我國ニ於テハ農業上灌漑排水ニ將リ農用及副業用ノ機械並ニ諸施設ニ精電氣、壯大徴收ナル光熱及動力ヲ著ク利用セシメ以テ疲弊

- 一 同年五月ヨリ十一月ニ渡リ地方産業ヲ獎勵シ海外貿易ノ發展ニ資スル為メ農商務省ヨリ借入タル海外輸出見本品、海外市場蒐集參考商品及該協會ニ於テ蒐集セル副業參考品ヲ以テ産業巡回展覽會ヲ山形外六縣ニ開催シ同展覽會ニ附隨シ産業講演會ヲ開催セリ
- 一 同年七月機開紙誌「産業時報」ヲ發刊
- 一 同年八月副業獎勵、為家庭職業講習會ヲ東京ニ於テ開催
- 一 同年八月一日ヨリ産業獎勵、為甲州身延山久遠寺ニ於テ夏期講習會ヲ開催ス
- 一 同年七月伯國博覽會出品管理事務ニ參與
- 一 同年八月島根縣杵築ニ於テ産業獎勵、為夏期講習會開催

農 商 務 省

- 一 同年十一月東京市上野公園産業館ニ於テ見本開催
- 一 同年八月鎌倉建長寺ニ於テ産業獎勵、為夏期講習會開催
- 一 同年八月萬國博覽會參加五十年記念博覽會開催ノ計畫ニ參與ス
- 一 同年八月東京ニ於テ副業獎勵、為家庭職業講習會開催
- 一 大正十三年五月海外産業功勞者二十五名ヲ選擧シ之ヲ表彰ス
- 一 同年八月ヨリ十二月迄群馬縣桐生市及東京府下ニ於テ家庭職業講習會ヲ開催
- 一 同年九月ヨリ十二月迄輸入防遏及國産ノ愛用觀念普及ヲ目的トシテ國産品愛用巡回展覽會ヲ東京

困憊ノ下ニ在ル農村ヲ救濟スルノ急務ナルヲ察知シ廣ク
海外ニ於ケル農事電氣利用法ヲ調査シ農村振興ヲ達成セ
シメンガ為同志ノエヲ糾合シ大正十二年六月農事電化協會ヲ
創設シ副會長トシテ大ニ盡ス所アリ今年十一月以降ハ會長ニ
選ハレ農事電化ノ急要ヲ天下ニ鼓吹スルト共ニ其ノ實行
獎勵ニ努メ以テ農村ノ危急ヲ救ヒ産業ノ基礎ヲ鞏固シ
国力ノ充實國運ノ伸長ニ資セント期シ新農業博覽會
會ノ開催及内外ニ於ケル農事上電氣利用ニ関スル調査ヲ
爲シ之ヲ印刷ニ附シ又電氣智識普及策トシテ新
農業夏季大學ヲ長野・奈良・西條下ニ於テ開催シ其他
講習講演會等ニ講師ヲ派遣シ農事電化ノ普及ニ盡
瘁スル所アリ

農商務省

(五) 大日本蚕絲會

大正四年四月ヨリ大正十年四月迄 評議員トナレリ

(六) 中央報徳會

明治三十八年十一月創立ニ際シ 評議員トナリ大正五年三月以
降ハ理事トナリ

(七) 青年團中央部

大正四年十二月創立ト共ニ 評議員及理事トナリ以テ今日ニ
至レリ

(八) 日本勸業銀行

大正十年五月日本勸業銀行參與理事トナリ今日ニ至ル

(九) 産業組合中央金庫

大正十二年十二月産業組合中央金庫評議員トナリ今日ニ
至ル

(一〇) 女工業組合中央會議所

第百三十三號

大正十四年二月茶業組合中央會議特別議員トナリ今日ニ
至ル

(一) 支那滿蒙ニ於ケル農牧企業ノ援助
支那及滿蒙ニ於テ本邦實業家ノ企業經營ニ係ル農業
牧畜業等ノ作興ニ援助ヲ與ヘタリ。就中棉花事業及牧
畜業ニ關スルモノ多ク殊ニ滿蒙ニ於ケル張作霖大倉組共同
經營ノ牧畜事業ノ如キハ既ニ其ノ成立ヲ告ケタリ

農 商 務 省

履 歴 書

本籍 東京府東京市四谷區三光町百二十八番地
現住所 同 前 東京府士族

道 家 嘉

安政四年二月二十日生

明治十七年十月二十七日

御用掛御付候事

農商務省

明治十九年二月十三日

但取扱委任ニ准シ月俸六十圓下賜候事

同 同

依願御用掛被免

同 同

任一等勲

同 同

谷農商務大臣歐州へ被差遣候ニ付隨行申付候事

同 同

任農商務廳(辭令ヲ用キス)

明治十九年三月一日

改定判任官官等俸給

同 同

叙判任官一等(辭令ヲ用キス)

同 同

農 林 省

同 同

歸 朝

同 同

任海軍省翻譯官叙委任官五等

同 同

場中設俸

海軍省

明治廿二年三月七日

改海軍省官制廢翻譯官

同 同

前官ノ非職ヲ命ス

同 同

任内閣總理大臣秘書官

同 同

叙奏任官五等中級俸下賜

明治廿三年一月十四日

上級俸下賜

同 同

叙奏任官四等

同 同

下級俸下賜

同 同 京都行幸供奉山縣内閣總理大臣隨行ヲ命ス

同 同

兼任内閣書記官

明治廿三年六月二十日

叙奏任官四等

同 同

叙正七位

明治廿四年二月十九日

故内大臣公爵三條實美葬儀掛被仰付

(小松精)

同	五月十九日	中級俸下賜	同
同	八月十六日	六級俸下賜	同
明治廿五年八月十二日		任樞密院書記官兼樞密院議長秘書官	同
同	同	六級俸下賜	樞密院
同	八月十九日	五級俸下賜	同
同	九月廿六日	敘從六位	宮内省
同	十一月十四日	文武高等官官等制定 高等官五等	
明治廿七年三月九日		明治廿七年勅令第廿三號ノ旨ニ依リ大婚廿五年祝典之章ヲ授與ス	
同	九月廿六日	安南國王殿下ヨリ贈與シタル龍星第三等勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ充許ス	賞勳局
明治廿八年八月廿三日		敘高等官四等	内閣
同	同	三級俸下賜	樞密院
同	十一月六日	敘正六位	宮内省
同	十二月九日	敘勳五等長襟寶章	
同	同		
同	同		
明治廿九年九月十八日		明治二十七八年事件ノ功ニ依リ勳五等長襟寶章及金五百圓ヲ授ケ賜フ	賞勳局
同	十一月十二日	二級俸下賜	樞密院
明治三十年九月廿二日		條約實施準備委員被仰付	内閣
同	同	敘高等官三等	
同	同	一級俸下賜	樞密院
同	十月三十日	敘從五位	宮内省
明治卅一年十一月十四日		法典調査會委員被仰付	同
明治卅二年三月三日		埃地利洪芽利國皇陛下ヨリ贈與シタル「コンヤンドル」ド、ロルドル、ド、フランソワ、ジョセフ」勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ充許ス	賞勳局
同	四月八日	任法制局參事官	内閣
同	同	敘高等官二等	
同	五月二十日	敘正五位	宮内省
同	十月廿三日	法朗西共和國政府ヨリ贈與シタル「ラフヒシエー、ロルドル、ナシヨナル、ド、ラ、レジョンドノール」勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ充許ス	賞勳局

農 林 省

(小松格)

農 林 省

同	十二月	百七十四	
同	十二月廿七日	敍勳四等授旭日小綬章	賞勳局
同	同	條約實施準備委員及法典調査會委員ノ職ヲ奉 シ條約實施事項ノ調査ニ從事シ勳勞不尠ニ付 勳四等旭日小綬章ヲ授ケ賜フ	同
明治卅三年五月八日		文官高等試験常任委員被仰付	内閣
明治卅五年十月廿二日		第一部長ヲ命ス	同
明治卅六年十一月廿日		文官高等試験常任委員手當金二百圓下賜	内閣
同	十二月廿六日	敍勳三等瑞寶章	賞勳局
同	十月十日	敍從四位	宮内省
明治卅九年四月一日		明治三十七八年事件ノ功ニ依リ旭日中綬章及 金二千圓ヲ授ケ賜フ	賞勳局
同	七月十三日	南滿洲鐵道株式會社設立委員被仰付	内閣
同	十二月十二日	南滿洲鐵道株式會社委員被免	同
同	四月一日	三十七八年從軍記章下賜	賞勳局
明治四十年四月		産業組合中央會委員就任	
明治四十一年八月廿九日		任水産局長	内閣
同	同	敍高等官二等	
同	九月十七日	關稅調査委員 (四十一年八月十三日 秘錄第一一三號通牒ニ 依ル)	
同	九月十七日	林野整理審査會委員被仰付	同
同	十月廿八日	日本大博覽會理事官被仰付	同
同	十二月廿五日	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
明治四十二年十一月卅日		敍正四位	宮内省
同	十二月廿二日	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
同	十二月	産業組合中央會委員解任	
明治四十三年一月		産業組合中央會參事就任	
同	四月卅日	生産調査會委員被仰付	内閣
同	十二月廿三日	農商務省所管事務政府委員被仰付	同
明治四十四年四月六日		米國華盛頓府ニ於テ協約保護條約會議開 設ニ付委員トシテ參列被仰付	同

(小松勢)

明治四十四年十二月廿六日 紋勳二等 賞勳局

明治四十五年三月卅一日 日本大博覽會事務局官制被廢 (明治四十五年三月勅令第一九號)

大正元年十二月廿四日 任農商務省農務局長

同 紋高等官二等 内閣

同 中央衛生會委員 (三十八年勅令第五七號)

同 同 農商務省 同 農商務省

同 同 中央種畜審査委員ヲ命ス

同 同 農商務省所管事務政府委員被仰付 内閣

大正二年九月十五日 紋高等官一等

同 同 大禮使事務官被仰付 内閣

同 同 典儀部員ヲ命ス 官内省

大正三年四月十一日 大禮使官制被廢 (勅令第五三號)

同 同 産業組合中央會監事就任 内閣

同 同 臨時博覽會理事官被仰付

農 林 省

同 十二月五日 米價調節委員會會長ヲ命ス 農商務省

同 十二月廿一日 紋從三位 官内省

大正四年三月十日 臨時藥業調査臨時委員ヲ囑託ス

同 同 大禮使事務官被仰付 内務省

同 同 農商務省所管事務政府委員被仰付 内閣

同 同 中央畜産會理事同副會頭就任

同 同 大正四年勅令第五十四號ノ旨ニ依リ大禮

同 同 記念章ヲ授與セラル 賞勳局

同 同 大正三四年事件ノ功ニ依リ旭日重光章及

同 同 金千七百圓ヲ賜フ 同

大正五年一月二十日 大禮使官制被廢 (勅令第二號)

同 同 中央華德會理事就任

同 同 馬政委員會委員長被仰付 内閣

同 同 臨時博覽會事務局官制被廢 (勅令第二三號)

同 同 經濟調査會幹事被仰付 同

(小松藩)

農 林 省

同	五月廿五日	大正四年桑港萬國博覽會ニ付盡力勸カラ ス依テ銀杯壹組ヲ贈與ス	農商務省
同	九月三十日	米價調節調査會官制被廢 (勅令第二三三 號)	
同	十二月廿五日	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
同	大正六年六月廿二日	農商務省所管事務政府委員被仰付	内閣
同	七月	中央種畜審査會廢止 (法律第一六號)	
同	十一月卅日	經濟調査會官制廢止 (勅令第二一九號)	
同	大正七年六月一日	軍需局參與被仰付	内閣
同	六月廿五日	救濟事業調査委員被仰付	同
同	八月廿三日	中央畜産會理事副會頭重任	
同	九月十八日	臨時國民經濟調査會幹事被仰付	同
同	十二月廿五日	農商務省所管事務政府委員被仰付	同
同	大正八年一月十五日	臨時條約改正調査委員會委員被仰付	内閣
同	五月十二日	馬政委員會委員被仰付	内閣
同	七月九日	臨時國民經濟調査會官制廢止 (勅令第三三一號)	
同	九月	産業組合中央會理事解任同月參事就任	
同	九月廿九日	臨時國民經濟調査會委員ノ勲ヲ奉シ盡力勸カ ラス依テ銀杯一組ヲ賜フ	賞勳局
同	十月四日	臨時財政經濟調査會幹事被仰付	内閣
同	十月九日	史蹟名勝天然記念物調査會委員被仰付	
同	大正九年三月卅一日	種牛改良調査委員長ヲ免ス	同
同	同	手當トシテ金五百圓給與ス (臨時米穀管同 理部長トシテ)	
同	大正九年三月卅一日	臨時産業調査局官制廢止 (勅令第五四 號)	
同	五月七日	鑛毒調査委員會委員ヲ命セラル (口達)	農商務省
同	五月十五日	軍需局參與廢職	
同	五月	産業組合中央會參事解任	

(小松精)

同	五月十九日	産業組合中央會理事就任	内閣
同	六月廿四日	依願免本官	内閣
同	七月十日	敘正三位	宮内省
同	同	特旨ヲ以テ位一級被進	同
同	七月十五日	錦雞間祇候被仰付	同
同	八月廿三日	伊國羅馬ニ於ケル萬國農事協會第五回總會へ委員トシテ參列被仰付九月廿一日（神戸出帆）	内閣
同	八月廿四日	農事改良ニ關スル調査ヲ囑託ス	農商務省
同	十一月一日	大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ勳一等瑞寶章及金千五百圓ヲ授ケ賜フ	賞勳局
大正十年一月十四日	同	瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ第三回國際勞働總會開催ニ付政府代表委員被仰付	内閣
同	三月十五日	緬羊及羊毛ニ關スル調査ヲ囑託ス	農商務省
同	同	歐洲各國へ出張ノ序ヲ以テ米國へ出張ヲ命ス	同
農 林 省			
同	五月十二日	株式會社日本勸業銀行ノ業務ニ參與スル理事ヲ命ス	大藏省
同	五月廿七日	歸 朝	
同	同七月二日	瑞西國ジュネーヴニ於テ開催ノ第三回國際勞働總會ニ於ケル政府代表委員被免	内閣
大正十年七月廿二日	同	日本産業協會理事ニ選任ス	日本産業協會 會總裁貞愛 親王
大正十一年七月廿六日	同	外務省事務ヲ囑託ス	外務省
同	七月廿九日	國際勞働理事會ニ於ケル帝國政府代表者被仰付	内閣
同	八月十八日	瑞西國ジュネーヴニ於テ開催ノ第四回國際勞働總會ニ於ケル政府代表委員被仰付	内閣
大正十二年三月一日	同	貴族院令第一條第四號ニ依リ貴族院議員ニ任ス	内閣總理 大臣

(小松精)

農 林 省

同	六月一日	農事電化協會副會長ニ互選サル	内閣
同	七月四日	國際勞働理事會ニ於ケル帝國政府代表 被免	内閣
同	十月十一日	日本產業協會會長ニ互選サル	
同	十月十九日	產業組合中央會副會頭ニ互選サル	
同	十一月十九日	農事電化協會會長ニ互選サル	
同	十一月廿六日	產業組合中央金庫評議員ヲ命ス	農商務省 大藏省
大正十三年三月廿三日		中央報德會理事重任	
大正八年十月四日		臨時財政經濟調查會幹事被仰付 (農商務省農務局トシテ)	内閣
大正九年六月廿四日		臨時財政經濟調查會幹事ハ依願免本官 ト同時ニ自然消滅	
大正十三年四月二日		帝國經濟會議議員被仰付	内閣
同	十一月廿五日	帝國經濟會議官制廢止	

(小松納)



故從二位勳三等子爵鍋島直虎

敘勳ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十四年十一月一日

内閣總理大臣子爵加藤高明



内

閣



訂 正

訂正理由	撮影ミスの為
訂正箇所	直前の / コマ取消 / コマ再撮影
訂正年月日	平成 20 年 9 月 29 日
このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。	
撮影者	田島 清治 (田島印)
受託責任者	東京都港区西麻布2丁目26番30号 富士フィルム株式会社 (印) 産業機材部長 後藤 佳久 (富士印)